

足立区議会議長 た だ 太 郎 様

足立区議会議員 10 番 水 野 あゆみ 印

一 般 質 問 通 告 書

今定例会に下記要旨の一般質問を行いたいので、会議規則第59条第2項の規定により質問通告書を提出します。

記

行政区分	質問の要旨
<p>1. 子ども家庭行政</p>	<p>I. 子どもが輝ける学校教育や放課後の居場所について</p> <p>1. 学童保育について</p> <p>今年度、学童保育室の待機児童は5月1日時点で388人となり、23区で最も高い数字となった。区はこれまで民設学童の誘致や既存学童の受入可能数の拡充等、様々な施策を進めてきたが、保護者から「学童に入れなければ働けない」という声や相談が多くある。</p> <p>(1) 今年度待機児童解消に向け取り組んでいるが、2月14日現在、令和7年度の待機児童数は、令和6年度に比べ減らせる見込みなのか伺う。</p> <p>(2) 待機児童数の把握の仕方は自治体によって差があるが、当区では「第一希望の学童に入れず、第二希望を辞退した家庭」も待機児童数にカウントしている。第二希望を辞退する各家庭の理由を把握すべきと考えるがどうか。</p> <p>また、真に学童保育が必要な家庭を把握した上で、対策も検討すべきと考えるがどうか、併せて伺う。</p> <p>(3) 区内の校内学童は67校中36校となったが、校内学童未設置校も半数近くある。未設置校における課題は何か。</p> <p>また、子ども達の安全安心のためにも、校内学童を優先して整備すべきと考えるが、併せて伺う。</p> <p>(4) 学童の待機児童数が多い一方で、個々の学童保育室の空きの問題もある。今後民設学童については、定員が満たないことにより閉鎖しないよう支援が必要と考えるが伺う。</p> <p>(5) 区では、学童以外に学校内で過ごせる「あだち放課後子ども教室」や家に帰宅せずにランドセルのまま児童館で過ごせる「ラン</p>
	<p>2月14日 午前・午後11時45分受付 質問時間 20分</p>

行政区分

質問の要旨

ドセルで児童館」など、誰でも利用できる放課後の居場所がある。就学前の保護者の中には、こうした情報を知らない人もいる。学童の入室方法や放課後等の居場所についてインターネットで検索しやすいよう「学童保育室」や「あだち放課後子ども教室」「ランドセルで児童館」また「子ども食堂」や「夏休みの居場所」「プレーパーク」等、全庁的に連携して取り組み、放課後の居場所に特化したサイト（仮称）「子どもの居場所ポータルサイト」を作るとともに、就学前の周知をさらに充実させるべきと考えるがどうか。

また、学童等の入室申請も同サイトからオンラインでできるようにしてはどうか、併せて伺う。

(6) 住区センターでは、学童とランドセルで児童館を一体的に運営している。ランドセルで児童館は下校時間から18時まで、また長期休暇中は9時から18時まで利用でき、児童館入退室をメールで保護者に知らせるサービスも整っている。住区学童の待機になった家庭には、積極的にランドセルで児童館を案内しているが、利用する場合には新たに申請が必要となっている。学童保育の申請書に、仮に待機児となった場合に備え、ランドセルで児童館への登録を促すチェック欄を追加するなど工夫してはどうか伺う。

(7) 我が党は長期休暇中の弁当宅配を全学童で実施するよう要望し、現在は16箇所の区立学童で実施している。全学童実施に向けて検討状況はどうか。

また、茨城県取手市では、市内14か所の学童保育室で民間事業者による予約注文サービス「ペコフリー」を通じ、地元農産物などを取り入れた日替わり弁当を提供している。弁当を希望する日の前日午後5時までにスマートフォンから注文すると学童に配達される仕組みで、利用状況は一日当たり40～50件、夏休みだけでなく、夏休み後も継続し振り替え休日等も提供すると聞いている。当区でもこのような仕組みも参考に全学童での早期提供を実現すべきと考えるが、併せて伺う。

(8) 学童の欠席等の連絡については学校同様アプリを利用し、保護者や学童従事者の負担軽減を図るよう、全住区学童へのタブレット端末の導入を令和6年第1回定例会で要望した。区からは「令和7年度の導入を目指す」との答弁であったが、導入や活用のスケジュールを伺う。

2. 教育指導行政

2. ひとり一人が輝ける学校教育について

現在、文部科学省では10年に1度の学習指導要領の改訂に取り

行政区分

質問の要旨

組んでいるが、当区でも子どもを真ん中に据えた子ども中心の学校教育が求められていると考える。

- (1) 東京学芸大学の研究チームは、昨年6月から9月にかけて、全国の公立中学校等の教員を対象に「中学校における一日6時間授業」について調査し、約1,650人から回答を得た。その結果「6時間授業は子どもへの負担が大きく生活にあっていない」とおよそ7割の教員が考えていることが分かった。また「子どもの集中力が続かず、学習効果も上がらない」と6割の教員が答えている。当区では、小学1年生から多くの学校で6時間授業が始まり、高学年になると6時間授業が常態化している。6時間授業や授業の在り方等について、子どもや教員がどのように感じているのか、今後どのようにしたいか等を調査し、当事者の声を聴くべきと考えるがどうか。

また、6時間授業を負担に感じている子どもや教員もいると考えるが、不登校や長期休業との因果関係について調査してはどうか、併せて伺う。

- (2) NPO法人「フリースペースたまりば」の西野博之理事長は「子どもにとって、遊ぶことは生きることそのものであり、遊ぶことを通して心と体の栄養を吸収する。遊びが持つ力は非認知能力を高め、人間として生きていく力を育む」と子どもの遊びを重要視している。6時間授業により、特に小学生の遊びの機会が十分確保されていないと考えるが認識はどうか。

また、子どもの幸せには非認知能力を身に着けることが大切とされているが、遊びの機会を十分に確保する必要があると考えるが、併せて伺う。

- (3) 目黒区では平成14年度から「小学校40分授業午前5時間制」を導入し、令和5年度には22校中17校で実施しており、令和8年度までに全校実施を目指している。小学校の授業「1単位45分」を40分で行い、始業時間を10分早める等し午前中に5時間目まで終わらせる仕組みである。6時間目の終了時刻は通常の5時間目とほぼ同時刻となるため、子どもや教員にとって放課後の時間が確保でき、教員は生み出した時間を教材研究等に活用している。また、45分授業と比べ子どもの学力も上がり、学びへの意識も上がったと報告している。当区では、学力定着に取り組み一定の成果は上がっているものの、小学校から6時間授業が常態化しており、さらに放課後に個々の苦手を補う個別学習もある。教員や子どもの負担を減らすためにも、5時間目や6時間目の授業時間内で個別学習に取り組むなど工夫した取り組みが必要

と考えるがどうか。

また、目黒区では放課後にゆとりをもたせることで教員の心身の健康、誇りとやりがいをもって勤務できる環境を確保している。働く教員からは「授業時数に余裕があり、午後に会議ができ他区より放課後の時間にゆとりがあると感じる。」との声がある。当区においても、教員の長期休業や退職が年々増えている中（昨年度の病気による長期休業は39名、退職者は9名）、多くの教員が足立区で働きたい、働き続けたいと思えるよう目黒区等の取り組みを参考に教員の働き方改革を進める必要があると考えるが、併せて伺う。

- (4) 昨年12月参議院の予算委員会における我が党の質問で「多様な子どもたちが主体的に学び輝くことができるよう柔軟な教育課程の編成を促す必要がある」と訴え、文科省より「時間割の編成を工夫し、午前は教科授業、午後は探究活動に充てる等、学習指導要領の検討に際し柔軟な教育課程編成の促進を議論する」旨答弁があった。当区でも午前中は教科授業、午後は苦手を補う個別学習を取り入れる等、主体的に学べるような授業の在り方や教育課程の編成に取り組めるよう検討すべきと考えるが伺う。

3. 不登校支援等について

令和5年度不登校児童生徒数は1,532名となり、5年間で約1.7倍に増えた。区は不登校支援に力を入れ取り組んできたが、今年度も増えることが予測される。不登校であっても学びが保障されなければならないが、学校や校外の学びにつながっていない子どもは少なくない。誰一人置き去りにしないという信念で支援につなげ、子どもの学びを保障すべきと考える。

- (1) 令和6年の第3回定例会で「フリースクールに通う児童・生徒に対し、授業料等を支援すべき」と要望し、令和7年度より東京都補助利用者へ区が一人2万円の上乗せ助成をすることが予算に盛り込まれたことは評価する。今後、補助金を出すうえでフリースクールと連携を密にし、必要な家庭へ補助金がスムーズに届くよう書類の簡素化を含め支援すべきと考えるが伺う。
- (2) 不登校児童生徒が欠席中に行った学習の成果を学校の判断で成績に反映できるよう法令が改正され、昨年8月に施行されたが、現状はどうか。

また、フリースクール等で努力した成果を学校の成績に反映すべきと考えるがどうか。

行政区分

質問の要旨

さらに、特に中学生は受験時の内申点や調査書に役立てるため、希望する生徒がフリースクールにおいて定期テストが受けられるよう仕組みをつくるべきと考えるが、併せて伺う。

(3) 不登校気味の子どもや行き渋り等、登校することにストレスを感じている子どもは少なくない。一度、不登校になると長期化し1年、2年と学習から離れてしまう現状もあり、それを防ぐ為にも不登校未然防止策は重要である。コロナ禍では感染症対策として教室で授業を受けるか、オンラインで受けるかを子どもや家庭が選択し授業を実施していた。不登校未然防止として、希望する場合にはオンライン授業が受けられるよう、対面とオンラインのハイブリッド授業を実施してはどうか伺う。

(4) 不登校支援の状況は学校によって大きな差が出ていると聞いている。例えば、オンライン授業を毎日受けられる学校もあれば、週1日程度、短時間の連絡のみといった学校もある。不登校であっても子どもたちの学びの機会を保障するよう文科省から通知で示されているが、オンライン授業の頻度や支援についても、学校へ明確な基準を示すとともに、実施状況を把握し、学校に対しオンライン授業等が実施できるよう支援すべきと考えるがどうか。

また、オンライン授業を受けた際の「出席扱い」については学校長の判断となっているが、学校により違いがあると聞く。オンライン授業参加者の出席扱いについては現状把握しているか。

さらに、欠席している子どもや家庭にとっては出席扱いになることが希望となり、不安の軽減につながると聞いている。学校長が「出席扱い」と判断しやすいよう、オンライン授業における出席扱いの基準をよりわかりやすく明示すべきと考えるが、併せて伺う。

(5) 不登校児童生徒の抱える悩みは様々だが、保護者は誰にも相談できず悩みを抱えている場合が多いと聞く。学校ではSCへの相談やSSWによる支援を行っているが、学校に来られない家庭には支援が届きづらい状況である。昨年度、不登校児童生徒やその保護者が相談・支援につながった家庭数はどうか。

また、令和7年度に不登校に関する実態調査を実施すると発表があったが、不登校の原因を把握し支援につなげるためにも、SC等から不登校の全ての家庭へアウトリーチも含めプッシュ型で相談支援すべきと考えるが、併せて伺う。

(6) 病気による長期欠席者は令和5年度370名に上る。不登校として把握されていないが、多くの保護者が病気と学習の遅れなど悩みを抱えている。実態を調査し、子どもの学びを保障するとともに、

家族への支援につなげるべきと考えるがどうか。

また、足立区障害者団体連合会からは「早期発見、早期支援のために思春期の心の病、精神疾患の対応方法等について適切な対応がとれるようパンフレットを作成し周知啓発してほしい」との要望が上がっている。昨年の決算特別委員会で要望し、教育長より「パンフレットの用意もできる限りすすめていく」との答弁があったが、例えば、長野県の「思春期の心の健康リーフレット」等を参考に、専門家と相談しながら足立区独自のパンフレットを作成し支援してほしいと考えるが、併せて伺う。

II. 区中央部の課題について

3. 都市建設行政

- (1) 五反野駅は一日の乗降客数が約3万5千人で、駅周辺には小・中学校や高校も多く、通勤通学時は混雑している。五反野駅前には信号機がない横断歩道や変則的な交差点は高低差も大きく、転倒する高齢者や接触事故も少なくない。駅前交通広場ができ、路上駐車は少なくなったものの、自転車と車の往来は依然として多く地域住民や利用者からは「安全に通行できるよう改善してほしい」との要望があるが、区の現状認識はどうか。

また、五反野駅前の安全対策について話し合う為にも、地域の声を伺いながら、新たに五反野駅周辺まちづくり協議会を立ち上げてはどうか、併せて伺う。

- (2) 五反野駅前には公衆喫煙所がなく、たばこの吸い殻が散乱しており、近隣住民等も有志で清掃活動を行っている。2020年には駅前交通広場内に喫煙所が整備される計画であったが、いまだに実現していない。定点調査でも五反野駅前はたばこのポイ捨てが一番多い場所と報告されている。喫煙所を整備してほしいとの声もあり再三質問してきたが、早期に整備すべきと考えるがどうか。

また、いつまでに整備するのか目標を示すべきと考えるが、併せて伺う。

- (3) 補助256号線からつながる四ツ家交差点から南側の花畑街道はガードレールがあるものの、内側に電柱が立っており安全な歩行空間が確保できていない。車いす利用者からは車道に出なければならず大変危険と聞いている。安全対策について地域と話し合い改善策を検討すべきと考えるが伺う。

- (4) 高齢者等から、「買い物や通院途中に休憩できるベンチが欲しい」との声を聞く。今後、公共施設を改修するタイミングで歩道沿いに

10番 水野 あゆみ	
行政区分	質問の要旨
	<p>ベンチの設置を計画したり、民間企業にベンチ設置の協力を仰ぐ等し、ウォークアブルな街を推進してはどうか伺う。</p> <p>(5) 令和2年第4回定例会で「プラスチック廃材や間伐材などを利用した環境に優しい人工木材を公園建設時や改修時に活用してはどうか」と質問し、令和3年2月に中央公園の老朽化したベンチの補修材として使用された。現在、区役所北館の大規模改修が行われており今後、新たに屋上テラスを作る計画と聞いているが、環境にも優しい人工木材を使用してはどうか伺う。</p> <p>(6) 中央本町の足立医師会館では休日診療をしており、区民から大変喜ばれている。年末年始にかけてインフルエンザ等の罹患者が増え、1週間で約3,700人、多い日には1日600人を超える診察があったと聞いている。駐車場にも限りがあるため混雑していたのが現状だが、現在は混雑状況など電話で対応しており負担が大きいと考える。また、区民からは順番待ちは何人程度なのか、ホームページ等で見られるようにしてほしいとの声も聴いている。医師会の意見を伺いながら、休日診療をインターネットサイトから予約できるようにしたり、時間になるまで自宅で待機できるような順番呼び出しシステムを導入する等、混雑緩和のためにも区が支援すべきと考えるが伺う。</p>